

**同志社大学社会福祉教育・研究支援センター
教育・研究プロジェクト申請**

1. 申請者（代表者）氏名

野村裕美

2. プロジェクト・テーマ

事例研究・研修プロジェクト

3. 共同研究者氏名と所属

嘱託研究員

田中希世子	神戸親和女子大学
浅野貴博	京都国際社会福祉センター
片岡哲司	大阪府社会福祉協議会
堀善昭	社会福祉法人紫野副施設長

アドバイザー

空閑浩人	本学スタッフ
山野尚美	京都府立大学
岩間伸之	大阪市立大学
所めぐみ	佛教大学
山本みどり	西陣病院
高木恵子	洛西愛育園
芹沢出	野菊荘
田中聖	京都市葛野地域包括支援センター
森山文則	京都大学医学部附属病院

嘱託研究員：ワーキンググループ参加、実務、取りまとめ、事業分析・評価、報告書作成

アドバイザー：ワーキンググループ参加（適時）、本プログラム運営に関するヒアリングへの協力、Ccへ講師としての協力（1～2回程度）

外部講師：Cc、ファシリテーター養成講座、SV講座開催することに依頼

4. 教育・研究の目的と計画概要

本プロジェクトの目的は、二つの視点から高度職業人の養成を目指すことにある。一つ目は、大学が院生等に対し、本事業の開催を通じて、将来の職業的スキルとモチベーションの涵養に努める場と機会を提供することである。二つ目は、社会福祉専門職教育及び研究を担う大学が社会貢献を果たす一つのあり方として、実践現場で専門職指導を担う現任のソーシャルワーカーらに対し、専門職指導・教育に関する研鑽の機会と場を提供するこ

とで、高度専門職者の養成のために貢献することである。具体的には、現場の指導者の養成や現任ソーシャルワーカーの卒後教育の場として、恒常的に役割を果たしていくことを意図している。これら二つの目的は、螺旋的にからみあい、それぞれの目的が達成されていく過程の中で融合的に成立するものとする。

5. 年次別教育・研究実施計画

① ケースカンファレンス

(事業案) 1. ケースカンファレンスの実施

2008年度5回(3・5・7・9・11月) ※講師1名体制

2009年度5回(3・5・7・9・11月) ※講師2名体制

2. 講師・ワーキンググループ等打合せ会の実施

適時開催

3. ケースカンファレンスファシリテーター養成講座の実施(一日講座)

2009年度3回(1・2・8月)

② スーパーバイザー養成講座

(事業案) 1. スーパーバイザー養成講座の開催(一泊二日講座)

2008年度2回(3・8月) ※講師1名 サブ講師2名

2009年度1回(3月) ※講師1名

2. 打合せ会の実施

適時開催

6. 研究上の予想される貢献と成果

社会福祉の実践・教育・研究を結びつけるターミナル機能を担うセンターの恒常化

(卒後研修センター・現任者訓練センター・教育教材開発センターとしての役割と機能)

7. 教育上の予想される貢献と成果

現任者にとっての事例検討の機会の提供、高度専門職人への成長

院生にとっては事例検討の成果をふまえ、成果を普遍化する事例研究の機会の獲得、高度専門職人としてのスキルの獲得

教育機関としての大学にとっては積み上げられた事例検討の成果を参考に事例教育法の開発

8. その他特記事項(あれば記入してください)

プロジェクトのメンバー構成については、保健・医療・福祉の領域を広くカバーできるように、福祉分野における多領域、また多職種によるメンバー構成を心がけている。特にカンファレンスの実施においては、社会福祉専門職単一のメンバーでの検討会はさることながら、多職種メンバーによる検討会も開催することを視野にいれ、現代的な課題でもある専門職の連携を育む教育訓練のあり方も模索する。